

創薬支援推進事業
創薬シーズ実用化支援基盤整備事業 中間評価報告書

研究開発課題名	エコシステムユニット
代表機関名	大阪商工会議所
研究開発代表者名	吉川 徹
全研究開発機関	平成 29 年度～令和 3 年度（予定）

1. 研究開発概要

本ユニットの研究開発内容は、(1) 有望なアカデミア創薬シーズを収集・評価した上で、(2) 収集・評価した案件に対する定量・定性的な目利きを行い、(3) 企業コミットメントの引出しと不足データパッケージを特定し、(4) アカデミア発明者 (PI : Principal Investigator) との研究計画書調整と AMED iD3 への提案、を実施するものである。

(1) の実績は、2019 年 9 月までの期間に計 327 件 (2017 年度 : 134 案件, 2018 年度 : 131 案件, 2019 年度 : 62 案件) であり、DSANJ Bio Conference (D-Bio) を通して収集・評価を行った。

(2)、(3)、(4) の実績は以下の通り、年度毎に報告する。

2017 年度 (1 期目) は、収集した 134 案件の中から 13 案件を選定し、AMED iD3 に 10 件を提案した。2018 年度 (2 期目) は、さらに踏み込んだ企業コミットメントの引出し広く製薬企業に導出を図れるよう AMED iD3 から要請を受け“1 案件 1 世話人体制 (1 案件に対して複数社のコミットメントを引出すのではなく、自社の意向を受けた世話人からコミットメントの引出すことにより、より確実な導出を目指す体制)”でユニット運営にあたった。131 案件の中から 18 案件を選定し、案件単位で担当する世話人を紐付けし、AMED iD3 に 18 件を提案した。

2. 研究開発成果

進捗状況は、「おおむね順調に進展」している。以下、本ユニットの活動毎に進捗状況を報告する。

(1) 収集、評価は、製薬企業の連携ニーズの高いアカデミア創薬シーズを計 327 件 D-Bio を通じて収集し、評価することができた。

(2) 定量・定性的目利きは、2017 年度 (1 期目)、製薬企業がヒアリングに応じるに値する案件を 13 案件、2018 年度 (2 期目) も、事業検討委員会会社が直接的に 18 案件の選定ができている。

(3) 企業コミットメントの引出しと不足データパッケージの特定、(4) アカデミア PI との研究計画書調整と AMED iD3 への提案は、2017 年度 (1 期目)、15 社にヒアリングし 10 案件を提案、2018 年度 (2 期目) は事業検討委員会を通じてハイレベルの企業コミットメントを引き出し、18 案件を提案ができている。

3. 総合評価

シーズ収集の実績とそのシステム化が行われており、プラットフォームとしての魅力がある。計画どおり進捗しており、製薬企業や大学機関との連携も進み、AMED との連携も進んでいる点、評価できる。円滑な導出に向け今後の計画においては、定量的な分析のみでなく定性的な分析の検討、新しいモダリティ等、革新的な評価を行う体制についての検討等も考慮し更なる展開を期待する。